

館山市におけるCATV利用の実態—教材研究を中心に—

長瀬千子(お茶の水女子大学院)

1. 報告の課題

館山市の事例調査に基づいてCATV利用にとおなう教材研究の変化を、CATVの導入要因、機能要因、校内体制要因、外的阻害要因との関連で明らかにしたい。その中で特に教師の意識が問題となる。

2. CATVの導入要因

館山市におけるCATVの導入は次の要因が統合される中で実現した。(1)北条小における教育実践の蓄積、(2)過疎化に対する教育の現代化を基調とした地域的対応、(3)文部省、電気公社の援助

3. CATVの機能要因

CATVの機能を館山市の事例に即して考えるならば、教育のシステム化と教材の資料提示という二要因を考えることができる。館山市のCATVシステムは放送センターを中心とし、全小中学校、幼稚園、公民館が同軸ケーブルで結ばれている。放送センターは、教材教具の集中管理配達をする資料センター機能と研修、指導機能、書組をはじめとする教材の制作機能を有している。

4. 校内体制要因

CATVの導入によって、教材研究を含み、校内の教育計画、研修体制、リーダー層のインシシアブル等が一貫した教育システムのもとに変革をせまられている。

5. CATV利用の外的阻害要因

この種の要因としては、(1)教科書中心、(2)多忙さ、(3)教師の職業意識が考えられる。これらの阻害要因は教材研究の変化における教師の意識において重要なかかわりを有している。教師の意識においては、CATVの機能要因として資料提示に主要な関心がおかれていて、しかし、このことは、教育のシステム化が進行することによってこれらの中の外的阻害要因が顕在化してきた現われとみるとできる。その意味では、阻害要因がCATV利用の中で対象化されはじめていることを示しており、教師の意識変革が進んでいくことを示している。以上の諸要因の中で教材研究の変化が進行している。

なお以上の報告は館山市放送センターの原田忠生先生をはじめとする先生方及び東京工業大学坂元昇教授の御指導と御協力によっておこなわれた調査にとづいている。主ヒンタビューア調査に基づく市内全教師を対象としたアンケート調査の一都も用いた。